

牧草と園藝

10
1994

通巻500号記念号

「牧草と園芸」通巻500号発刊に際し

ごあいさつ

「牧草と園芸」誌の創刊は昭和28年3月に第1号として発刊、40余年の星霜を経て、本号をもちまして500号を数えることができました。その間、1号も欠かすことなく今日まで継続できましたことは編集発行の責にある者として誠に感慨深きものを覚え、今更ながら読者の皆様方のお支えと、ご執筆いただき、ご指導を賜った各界の数多くの皆様に深く感謝の意を捧げ、ここにありがたく厚くお礼を申し上げます。

創刊時はいまだ戦後10年たらずの食料・物資も不足がち、紙や印刷技術も万全といえぬ状況の中でしたが、牧草・飼料作物や園芸作物の正しい栽培技術を啓蒙し、かつ、当社と農村の絆をより固くするため、実践的技術解説を主とした月刊定期の「牧草と園芸」誌がスタートいたしました。

100号記念(第9巻・第6号、昭和36年6月)には農林省(現、農林水産省)より激励のお言葉をいただき、その内容が「牧草と園芸」発刊の精神を端的に表しておりますので要約し、ここにご紹介をいたします。

「刊行物を定期的に出版することは非常にむずかしいことであるときく。また、自分の多少の経験からもそうだと考えていた積りであるが、100号を数えたことはすばらしい。……本誌の記事内容についても、ただ単に識者の寄稿のみでなく、自ら農場を経営し、その試験結果をまとめて掲載するほか、会社の技術者を全国に派遣して優良栽培事例などの調査、収録するなど公的機関が行わなければならない部面にまで亘り編集されている点、単なる営利のための出版物とみるよりは(農業への)奉仕的な出版物とみるのが妥当なように思料され、会社の企画に対し改めて敬意を表すると共に、技術を更に積み重ねて啓蒙普及について、この上とも寄与することを念願する」(農林省畜産局自給飼料課より)。

時代の変遷と農業技術の日進月歩に併せて、常にわが国農業の発展を願い「牧草と園芸」の編集や記事内容の充実に努めてまいりましたが、発刊の精神を堅持し、今後も更に、皆様方のご指導を得て内容の充実に一段と努力し、日頃のご愛顧に應えてまいる所存であります。

「牧草と園芸」500号発刊に際し、お礼とごあいさつを申し上げます。

平成6年10月1日

雪印種苗株式会社

取締役社長 森山 昭

